

行政のお墓プロジェクト

～須恵町の新たなお墓管理への挑戦～



指導教官：自治大学校客員教授 西藤 公司

第2部課程 第183期 第1班

7番	越谷市	中野	久美子
37番	北名古屋市	小崎	康雄
41番	茨木市	東	利之
45番	大竹市	野島	史雄
49番	須恵町	有働	幸生

目 次

政策提言の要旨	1
はじめに	2
第1章 お墓に対する現状調査等（須恵町と福岡都市圏）	2
1 自治体概要	2
2 人口及び家族形態の変化	3
3 お墓の管理状況（放棄地、不足状況、価格）	3
4 お墓に対する意識	4
5 将来のお墓ニーズ	5
第2章 課題抽出と課題解決の方向性	6
現状から見えてくる課題	6
第3章 他自治体における事例調査	7
先進自治体事例（横浜市）	7
第4章 公営納骨堂整備に向けての提言	9
1 整備に関する法令・手続き	9
2 経営形態・運営主体の検討	10
3 モデル自治体（須恵町）でのシミュレーション	11
(1) 場所設定	11
(2) 経営形態別コスト等シミュレーション	11
4 まとめ	14
おわりに	14

政策提言の要旨

行政のお墓プロジェクト

～須恵町の新たなお墓管理への挑戦～

背景

- 少子化、高齢化の進行
- 無縁墓地の存在
- 家族形態の変化
- お墓に対する意識の変化

問題

- 死亡者増加による墓地不足
- 無縁仏への対応
- 墓石を希望しない人の増加

課題

墓地不足や無縁仏、ニーズを踏まえた施設の整備

課題解決の方向性

政策提言

公営納骨堂の整備

ニーズ予測

場所

納骨堂

経営シミュレーション

採算性

経営形態・運営主体

無縁仏の解消

墓地不足の解消

財政収入の確保

「点から線へ…」

山口県東部～広島県西部のスローでロハスなツーリズム



(指導教官)

自治大学校客員教授

佐々木 淳

	第2部課程	第183期	第2班
3番	北海道美幌町		澤田 孝洋
4番	宮城県登米市		沼倉 貴宏
8番	東京都福生市		荻島 正義
16番	鹿児島県いちき串木野市		福丸 智也
47番	山口県和木町		山本 悦史

目 次

政策提言の要旨	1
はじめに	2
第1章 現状分析	2
1 山口県岩国市及び和木町の概要	2
2 主な地域資源	3
3 滞在型観光客が少ない状況にある	3
4 サイクルツーリズムの成功事例	3
5 サイクル県やまぐち事業への取り組み	5
6 近年の自転車利用の増加	5
第2章 課題	6
第3章 政策提言	7
提言1 広域連携DMOの設立	7
提言2 自転車による観光の推進	8
提言3 受入体制の充実	10
効果	13
おわりに	14

政策提言の要旨

現状

- ・ 山口県東部は豊富な観光資源がある一方、滞在型観光客が少ない
- ・ 隣接の広島県は、しまなみ海道を始めとする自転車観光の先進地
- ・ 近年、自転車利用が増加している

新しい観光方法の創出（ポイント型からライン型へ）

課題

- ・ ライン型とするための行政区域に捉われない広域的な取り組み
- ・ 新たな観光誘致のための地域での受入体制の構築
- ・ ライトな自転車ユーザーや地域住民も楽しめる取り組み

政策

広域連携DMOの設立

- 広域連携組織の必要性及び内容

自転車による観光の推進

- プログラムの設定
- ライトユーザー等への取り組み

受入体制の充実

- サポート体制の充実
- 快適な環境づくり
- 交通事故の防止

効果

- ・ 滞在型観光客の増加
- ・ 広域連携DMOによる効果
- ・ 地域の魅力を「わがまちの誇り・宝」とした郷土愛の醸成

藍は中山間地域を救う

— 農家の所得向上を目指して —



第2部課程 第183期 第3班

指導教官 自治大学校客員教授 原田 淳志

5番	栃木県佐野市	佐山 誠士
22番	北海道比布町	小菅生 竜夫
32番	石川県小松市	中川 英
43番	大阪府河内長野市	二井 康仁
44番	兵庫県赤穂市	平松 孝朗

目 次

政策提言の要旨	1
はじめに	1
第1章 佐野市の概要と藍とのかかわり	2
第1節 佐野市の概要	2
第2節 佐野市における藍の歴史	2
第2章 中山間地域の現状分析	3
第1節 地域の人口分析	3
第2節 農家の状況分析	3
第3節 耕作放棄地の状況分析	4
第3章 藍を取り巻く状況	5
第1節 効能と活用事例	5
第2節 各地の収穫量	6
第4章 課題抽出と目標設定	7
第1節 課題の抽出	7
第2節 目標の設定	9
第5章 政策提言	9
第1節 専門部署の設置	9
第2節 藍農家の育成・支援	10
第3節 ネットワークの構築及びプロモーション	13
おわりに	14

政策提言の要旨

藍は中山間地域を救う — 農家の所得向上を目指して —

現 状

- ① 農家の高齢化、担い手不足により耕作放棄地が増加している
- ② 狭小な農地が多く作業効率が悪い
- ③ 農業所得が少ない
- ④ 全国的に藍草供給量が不足している

課 題

- ① 耕作放棄地の活用
- ② 新たな農作物による農家所得の向上
- ③ 藍草供給量の増加

提 言

- ① 専門部署の設置
- ② 藍農家の育成・支援
- ③ ネットワークの構築及びプロモーション

効 果

- 「美しい里山景観とコミュニティ機能の維持」
- ① 耕作放棄地減少による里山景観の保全
 - ② 農業所得の向上による離農抑制と農家数確保
 - ③ 藍の産業化に向けた生産量拡大

地 方 創 生

はじめに

近年の急激な少子高齢化の進行、人口減少時代の到来により社会情勢は大きく変化している。地方では若者が減少し、新たな時代に対応するための地域の活力が低下しているところもある。

特に、中山間地域ではそのような傾向が顕著であり、今回モデル地区として取り上げる栃木県佐野市新合地区でも、次世代の農家の担い手が不足し、高齢化、過疎化が進んでいる。また、地理的な影響から小規模零細な農家が多く、十分な所得を得られていないこともこの一因と考えられる。

今回、我々は地方創生の観点から、佐野市の地域資源の一つである「藍」を使って農家の所得向上を図るものであり、中山間地域の活性化に寄与するものとして提案する。

伝統的織物の担い手確保と販路拡大について

～伊勢崎銘仙、伝統をつなぐ新たな出発～



伊勢崎銘仙を着た女優、
榎実佐子(まき ふさこ) [昭和 12 年]



郷土かるた「上毛かるた」に描かれた
伊勢崎銘仙



伊勢崎銘仙を着た
ご当地ぐんまちゃん

指導教官：自治大学校客員教授 原田 淳志

第 2 部課程 第 1 8 3 期 第 4 班

6 番	群馬県伊勢崎市	新井 香代子
1 5 番	鹿児島県出水市	前田 哲郎
2 4 番	山形県東根市	芦野 満敏
3 1 番	富山県射水市	堀川 広起
5 0 番	佐賀県鳥栖市	有馬 豊和

目次

政策提言の要旨	1
はじめに	2
第1章 伊勢崎市及び伊勢崎銘仙の現状	2
(1) 群馬県伊勢崎市の概要	2
(2) 伊勢崎銘仙の歩みと現状	2
第2章 現状分析と課題	4
(1) 伊勢崎市に関する現状分析	4
(2) 他の銘仙産地の現状	6
(3) 国内の着物産業に関する現状分析	6
(4) 分析結果からの課題と考察	8
第3章 政策提言「伊勢崎銘仙再興プロジェクト」	9
(1) 事業の目的	9
(2) 事業の推進体制の構築	9
(3) 担い手確保に向けた取組	11
(4) 販路拡大に向けた取組	12
(5) 伊勢崎銘仙再興プロジェクトによる出荷額と事業費の見込み	13
おわりに	14

政策提言の要旨

背景

- ・伊勢崎銘仙は、大正から昭和中期の頃まで女性の着物のシェアの大半を占めていた
- ・一方で、技術者の減少や高齢化が進んでおり、このままでは新たな生産ができなくなり、貴重な伝統産業が途絶えてしまう恐れがある
- ・そのため、伊勢崎銘仙が伝統産業としてのみならず、産業としても成立するような仕組み作りを提言する



現状と課題

伊勢崎銘仙の状況

技術者の減少と高齢化が進み、技能継承と生産量確保に向けて残された時間は少ない。

→「担い手不足は喫緊の課題」

着物市場の状況

若年女性を中心に着物の高い着用意向が示されており、冠婚葬祭以外での着用意向も高い。

→「着物市場に希望が持てる」

伊勢崎市の状況

市を挙げて貴重な伝統産業を守ろうという機運は低く、再興に向けた具体的な動きもない。

→「再興機運醸成の必要性」



政策提言

「伊勢崎銘仙再興プロジェクト」

早急に担い手確保に着手し、他産地の強みも活用しながら機械化が可能なタイプの銘仙については、工程の一部を市外に発注することで比較的短期に生産体制を整備。

→「地域おこし協力隊などの制度を利用し、担い手確保を推進」

若年女性の着物着用意向は高く、低価格帯での購入を希望。他の着物と比較してリーズナブルな伊勢崎銘仙は、こうしたマーケットに活路がある。

→「販路拡大に向けた取組」

伊勢崎銘仙が市の貴重な財産であることを市全体で再認識し、再興機運を醸成。群馬県や他の銘仙産地（足利、秩父、桐生）との広域連携による取組。

→「地域商社と市推進室を設置。両者が再興の核となって事業を推進」



す 将 が 来 た の

まちの「しごと」でありつづける。
まちを彩る「シンボル」でありつづける。
これからも、世代をつなぐ、伊勢崎銘仙。

周南市
子どもの居場所づくりと
生活習慣改善



“もやい”子ども・地域ひろば

(指導教官)

自治大学校客員教授

佐々木 淳

第2部課程 第183期 第5班

1番	北海道赤井川村	天野 勝吾
14番	山口県周南市	金近 和博
21番	北海道蘭越町	亀山 亨
23番	青森県八戸市	中村 栄司
52番	沖縄県北谷町	仲宗根清雄

もくじ

政策提言の要旨	1
はじめに	2
第1章 子どもを取り巻く現状	2
1. 子どもの生活習慣の乱れ	2
(1) 子どもの生活習慣の現状について	2
(2) 生活習慣の乱れが学力の低下を招く	3
(3) 子どもたちの社会性、学校生活の現状について	3
2. 周南市の子ども・子育て支援の状況	4
(1) 子ども関連施設と放課後子ども教室の状況	4
(2) 子ども・子育て支援の方向性	4
(3) 児童クラブ入会率の推移	4
第2章 現状分析・課題抽出	5
1. 家庭外で「家庭教育のフォロー」が必要ではないか?	5
(1) 核家族の増加、三世帯世帯の減少による子育て経験の不継承	5
(2) 子どもと関わる時間の減少	5
(3) 地域からの育児の孤立化	5
2. 「社会性・生活の基本的ルールを学ぶ居場所づくり」が必要ではないか?	6
(1) 大人・異世代と関わる機会の必要性	6
(2) 子ども同士（集団）の関わり方の必要性	6
第3章 政策提言	8
提言1 「もやい」で安心、放課後はみんなで集う！（居場所づくり）	8
1. 「"もやい"子ども・地域ひろば」の開設	8
2. 「"もやい"子ども・地域ひろば」の体制	8
提言2 「もやい」で安心、社会性と生活習慣は地域で学ぶ！（家庭教育のフォロー）	10
1. 基本的な生活習慣を身に付ける	10
(1) 学習習慣の定着：学力の向上へ	10
(2) 運動・遊びの定着：体力と社会性の向上へ	10
(3) 食の提供：食習慣の定着から孤食の解消、生活リズムの改善へ	11
2. 担い手は「地域住民」、多様な「もやい」を作る：地域力の向上	11
(1) "我がごと"意識の醸成	11
(2) 地域住民は子育て資源	12
(3) 子育て交流サロン開設	12
第4章 効果 ～目指すその先～	14
おわりに	14

政策提言の要旨

子どもを取り巻く現状

- ・子どもの生活習慣の乱れ
- ・周南市の子ども・子育て支援の状況

現状分析・課題抽出

- ・家庭外で「家庭教育のフォロー」が必要ではないか？
- ・「社会性・生活の基本的ルールを学ぶ居場所づくり」が必要ではないか？

政策提言

- ・「“もやい”子ども・地域ひろば」開設（居場所づくり）
- ・基本的な生活習慣を身につける（家庭教育のフォロー）
- ・担い手は「地域住民」、多様な「もやい」を作る（地域力の向上）

効果 ～目指すその先～

- ・誰もが安心して子育てできる地域へ
- ・地域による子育て意識の継承・循環
～支えられる側から支える側へ～

江田島市「健幸」プロジェクト

～効果的な健康づくり～



【指導教官】

自治大学校 客員教授 三輪和夫

【第2部課程第183期 第6班】

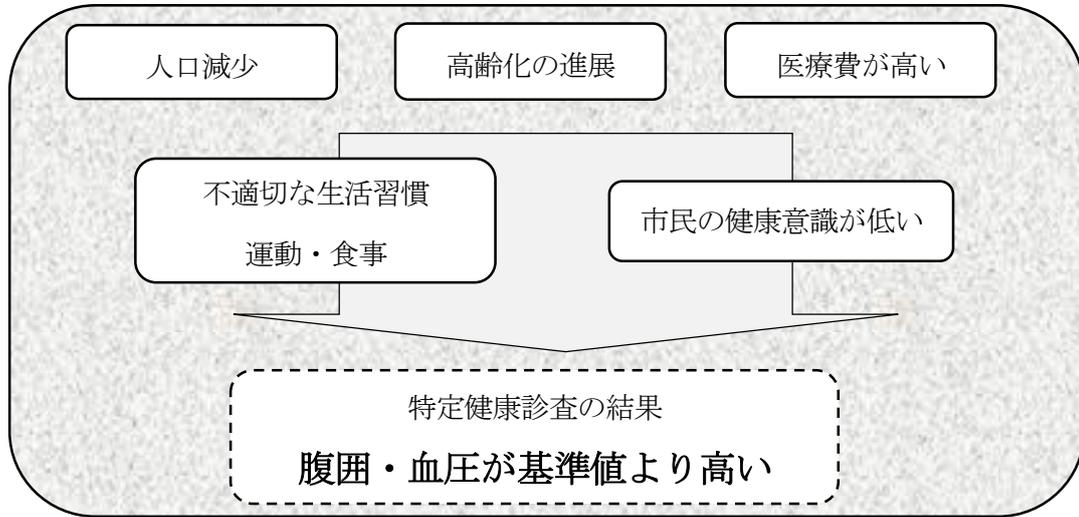
- 13番 広島県江田島市 道本浩二
- 10番 三重県東員町 伊藤太一
- 11番 京都府舞鶴市 西村良子
- 12番 兵庫県三田市 後尾典孝
- 20番 愛知県稲沢市 鈴木達哉

目 次

提言要旨	1
はじめに	2
<hr/>	
第1章 江田島市の現状	
第1節 江田島市の概要	2
(1) 位置と地勢	2
(2) 人口の状況	3
第2節 江田島市の医療費の現状	4
<hr/>	
第2章 課題の抽出	
第1節 健康状態と市民意識	5
(1) 特定健康診査の状況	5
(2) 死亡の状況	7
(3) 市民の意識	7
第2節 これまでの取組みと課題	7
(1) 江田島市における運動・食事に関する取組み	7
(2) 課題	8
<hr/>	
第3章 政策提言	
第1節 政策提言の方向性	9
第2節 具体的提言	9
(1) 提言1「農作業推進による運動プロジェクト」	9
(2) 提言2「えたじまん食育レシピ定着&減塩対策強化プロジェクト」	11
(3) 提言3「あなたの塩分はどのくらい「見える化」プロジェクト」	12
(4) 提言4「健康意識向上アウトリーチプロジェクト」	12
第3節 期待できる効果	13
おわりに	14

提言要旨

現状と課題



対策



江田島市の資源を生かした政策提案へつなげる！

政策提言

「農作業推進による運動プロジェクト」

「えたじまん食育レシピ定着&減塩対策強化プロジェクト」

「あなたの塩分はどのくらい「見える化」プロジェクト」

「健康意識向上アウトリーチプロジェクト」

目指す効果

健康づくりを活かした幸せで活力ある市民を増やし、健康寿命の延伸に向けて、健康意識の高い元気な市民による活気あふれる地域を目指す！

水道メーターを利用した

高齢者の見守り

～一関市の高齢者の見守り対策～



【指導教官】

自治大学校客員教授 満田 誉

【第2部課程第183期 第7班】

18番	岩手県一関市	岩瀬 琢哉
19番	愛知県稲沢市	原 健夫
28番	千葉県袖ヶ浦市	北島 規与泰
34番	山梨県韮崎市	雨宮 幸司
38番	京都府宇治市	木田 陽子

目 次

提言要旨	1
はじめに	2
第1章 現状分析	2
1. 高齢者の現状と見守りの必要性	
2. 高齢者の見守り体制の現状	
3. 一関市の概要及び状況	
第2章 課題の抽出	7
1. 見守り体制の不足	
2. 高齢者の見守りの理想と現状の乖離	
第3章 政策提言	8
1. 水道メーターのIoT化と高齢者の見守り体制の提案	
2. 費用対効果の検証	
おわりに	13

政策提言の要旨

現 状

○高齢者の現状と見守りの必要性

- ・高齢者のみ世帯は年々増加傾向
- ・一人暮らし高齢者の孤独死も増加

○高齢者の見守り体制の現状

- ・民生委員による見守り
- ・市の見守り事業
- ・民間事業者による見守り

課 題

○見守り体制の不足

- ・民生委員のなり手不足、高齢化
- ・定期訪問は多くても月1回程度
- ・十分な見守り活動ができていない

○見守りの理想と現状の乖離

- ・理想は毎朝の訪問
- ・現在の見守り体制の限界

政策提言

○水道メーターを利用した高齢者の見守り

- ・水道メーターのIoT化による見守り体制の提案
- ・費用対効果の検証

効 果

○十分な見守り体制の構築（1日1回の見守りの実施）

○水道業務の業務改善

（検針員コストの削減・漏水早期発見・管網更新計画の策定など）

○行政コストの削減

目次

政策提言の要旨	1
はじめに	2
第1章 現状分析	2
1. 南城市の概要	2
2. 南城市の人口分析	3
①人口増加	3
②地区別人口	3
③年少人口	4
3. 小中学校の概要	4
第2章 課題抽出と目標設定	4
1. 課題の抽出	4
①南城市の小中学校児童生徒数の現状	4
②児童生徒数の不均衡に起因する問題点	5
(1)教育の質の低下 (2)教職員の負担増加 (3)学校存続の危機	
③児童生徒数の不均衡解消のための方策の検討	6
【課題】児童生徒数の不均衡の解消	6
2. 目標設定	6
K P I の設定	7
第3章 政策提言	8
1. 特色ある小中一貫英語教育	8
①英語教育についての保護者のニーズ	8
②教育内容	10
(1)次期学習指導要領の枠を超えた小学校1年生からの英語教育の実施	
(2)小中一貫教育のメリットを活かした英語教育	
(3)英語コミュニケーション能力を向上させる教育	
(4)海外との英語交流事業の実施	
③目指す生徒像	12
2. 実施に当たっての課題と解決方法	12
①A L T の加配及び英語教育コーディネーターの配置	12
②現職教員の英語能力の向上	12
③登下校の不便を解消する交通施策	12
④保護者の理解促進	12
⑤経費	13
おわりに	14

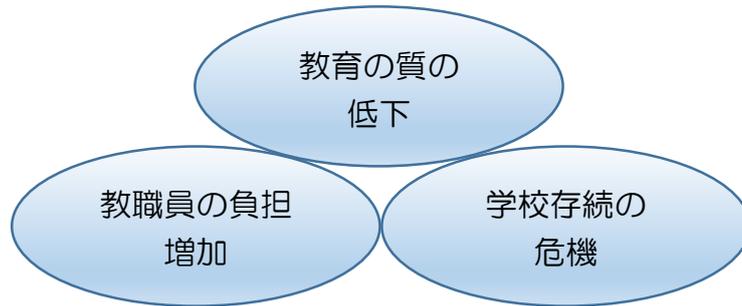
政策提言の要旨

現状
分析

南城市の概要、人口分析
南城市の小・中学校の概要

課題
抽出

南城市の児童生徒数の不均衡に起因する問題点



児童生徒数の不均衡解消（大規模校から小規模校への移動促進）

目標
設定

児童数が多い小学校から少ない小学校へ

大里南小学校

児童

知念小学校

標準的な
学級数へ

政策
提言

知念地区における特色ある学校教育の導入

小学校1年生
からの英語活動

小中一貫の
英語教育

英語コミュニケーション
能力の向上

英語交流事業
の実施

効果

- ・ 学校の新・増設に係る莫大な費用の削減
- ・ 児童生徒数の不均衡の解消と教育の質の向上

過疎地域におけるコンパクトシティ化

～新潟県十日町市の生活を守る！～



指導教官：自治大学校客員教授 西藤 公司

自治大学校 第2部課程 第183期 第9班

26番	埼玉県上尾市	松本	慶多
29番	神奈川県藤沢市	山口	力也
30番	新潟県十日町市	笠原	裕子
36番	愛知県知立市	石原	英泰
39番	京都府城陽市	上田	周児

目 次

提言要旨	1
はじめに	2
第1章 過疎地域の現状分析	2
1. 日本の過疎地域の状況	2
2. 十日町市の状況	2
2.1 十日町市の概要	2
2.2 十日町市の計画の把握	3
2.3 公共施設等の状況把握	4
2.4 分散集落の状況把握	5
第2章 課題の整理	6
1. モデル集落の設定	6
2. モデル集落1人あたりの行政コスト	7
3. 課題の整理	7
第3章 政策提言	8
1. まちづくりの方向性	8
2. 政策提言	9
政策提言1：移転対象集落への移転支援制度	9
政策提言2：モデル集落における行政コスト削減と財源確保	11
政策提言3：住民へのわかりやすい政策情報の提供	13
おわりに	14

政策提言の要旨

【背景】

- ・新潟県十日町市の中山間地域における過疎化による人口減少・高齢化
- ・点在する分散集落のインフラの維持管理費用の財政逼迫



【十日町市の状況】

- ・人口減少、少子高齢化の進行状況
- ・財政状況、予測
- ・公共施設等の状況把握
- ・分散集落の状況把握



【課題の整理】

- ・分散集落における行政コストが高く財政負担の軽減(平準化)が必要
- ・過疎化により存続が困難な集落への市街地への移転支援策が必要



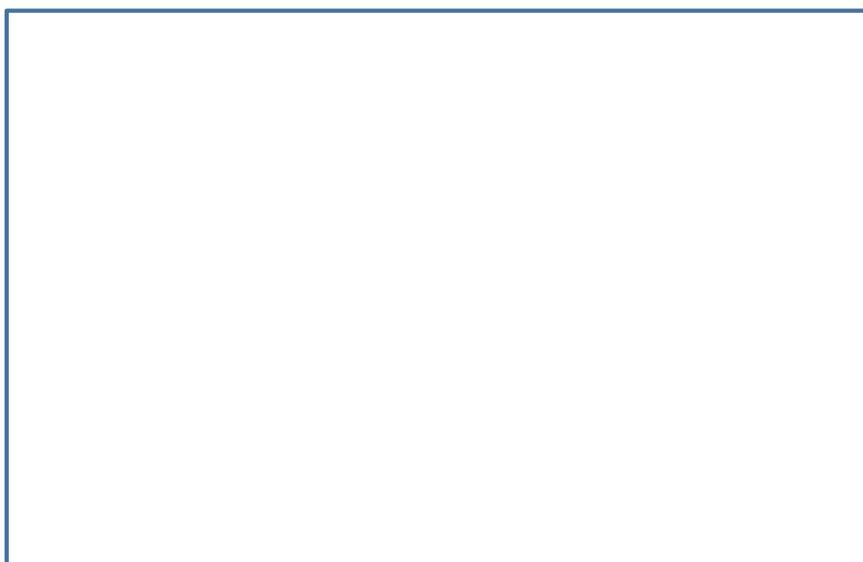
【政策提言】

〈まちづくりの方向性〉

存続が困難となりつつある過疎集落を利便性が高く、災害リスクの少ない市街地や地域拠点に誘導する。

- 政策提言 1 移転対象集落への移転支援制度の策定
- 政策提言 2 モデル集落における行政コスト削減と財源確保
- 政策提言 3 住民へのわかりやすい政策情報の提供

避難所におけるペットの取扱いについて
～災害時における人とペットの共存～



【指導教官】 自治大学校客員教授 三輪和夫

【第2部課程 第183期 第10班】

2番	北海道	月形町	鈴木	暢
9番	愛知県	武豊町	坂野	国生
46番	広島県	海田町	山田	長秀
48番	愛媛県	西条市	今井	真秀
51番	長崎県	長崎市	川脇	忍

目次

政策提言の要旨	・・・・・・・・ 1
はじめに	・・・・・・・・ 2
第1章 現状分析	・・・・・・・・ 2
1 国のペット避難対策の現状	・・・・・・・・ 2
2 ペット対応マニュアル策定市区町村の現状	・・・・・・・・ 2
3 飼い主の意識の現状	・・・・・・・・ 3
4 武豊町の紹介・位置図	・・・・・・・・ 4
第2章 事例分析・課題抽出	・・・・・・・・ 5
第3章 政策提言	・・・・・・・・ 7
提言1 資機材の備え	・・・・・・・・ 7
提言2 避難所の運営	・・・・・・・・ 7
提言3 受援・連携体制	・・・・・・・・ 10
提言4 啓発	・・・・・・・・ 11
おわりに	・・・・・・・・ 13



政策提言の要旨

避難所におけるペットの取扱いについて
～ 災害時における人とペットの共存 ～

現状分析

- ・ 国及び地方公共団体の災害時におけるペットの対応状況
- ・ ペット飼い主の意識の現状

事例分析

熊本地震時の避難所におけるペット対応事例分析

課題抽出

事例分析からの課題抽出

政策提言

1 資機材の備え

備蓄内容及び数量等の
明確化

2 避難所の運営

具体的なルール等の
作成

3 受援・連携体制

町の体制、物資供給
協定見直し

4 啓発

防災意識向上手段の
明確化

災害時における人とペットの共存